

## ホブソンの婿選び (1954)

HOBSON'S CHOICE

メディア 映画

ジャンル コメディ ドラマ

製作国 イギリス

色彩 B&amp;W

時間 107分

初公開日 1955/03/05

公開情報 東和

## 【解説】

19世紀末、ランカシャーの小都市で中規模の靴店を営むホブソン（ロートン）は、大酒のみの強つくばり。適齢期をすぎた長女マギー（デ・バンジー）は働き者なので、すっかり老後の自分の面倒を見させるためそばに置き続けようとし、下の妹二人にはそれぞれ恋人もいるに関わらず、持参金惜しさにその仲を認めようとしめない。これに反抗するマギーは、腕のいい職人ウィル（J・ミルズ）に自分を売り込み、彼と共に家出し、上顧客の貴族夫人に資金を借りて彼の名で出店、そして夫婦となる。このマギーの行動力たるや超現代的で、最初は下宿先の娘と添わされるはずだったウィルを、肝っ玉おカミと丁々発止のやりとりの末、奪ってくる所など惚れ惚れする。それにうっとりとし聞き入るウィルのミルズがまた、無教養だが純情な男が愛される喜びを知る過程を、抜群の演技でみせる。マギーは妹たちを呼びつけ、彼女たちにも決起を促し、二人は互いの意中の人物と所帯を持つ。次女アリスは弁護士ポロサーと、三女ヴィッキーは近所の穀物卸商の息子ビンストックと。世話を焼く者のいなくなった父はますます酒に溺れ、ある晩、泥酔し（水溜りに映る月と戯れる傑作な場面の後）ビンストックの地下倉庫に落下、不法侵入で訴えられたのを機会に、遂にマギーの軍門に下り、下の娘二人の結婚を許す。なお、アルコール依存の止まぬ父は、巨大ネズミの幻覚をみるまでになり、マギーらと呼ばせ、店の共同経営の提言をのむ。石板にひとしきり、マギーから教わった諺を書きつけてから、つまり、お勉強をすませて初夜の床入りをする場面が実に見事で、リーンの喜劇センスを大いに見直した次第。

## 【クレジット】

|      |              |                  |
|------|--------------|------------------|
| 監督   | デヴィッド・リーン    | David Lean       |
| 脚本   | デヴィッド・リーン    | David Lean       |
|      | ノーマン・スペンサー   | Norman Spencer   |
|      | ウィンヤード・ブラウン  | Wynyard Browne   |
| 撮影   | ジャック・ヒルデヤード  | Jack Hildyard    |
| 音楽   | マルコム・アーノルド   | Malcolm Arnold   |
| 音楽指揮 | ミュア・マシーソン    | Muir Mathieson   |
| 出演   | チャールズ・ロートン   | Charles Laughton |
|      | ブレンダ・デ・バンジー  | Brenda de Banzie |
|      | ジョン・ミルズ      | John Mills       |
|      | プルネラ・スケイルズ   | Prunella Scales  |
|      | フィリップ・ステイントン | Philip Stainton  |